

【注意喚起】 風しんや麻しんの患者報告が増加しています

MR(麻しん風しん混合)予防接種を受けましょう！

奈良教育大学保健センター

発疹、発熱などの症状がある場合は、かかりつけ医または医療機関に電話等で伝え、受診の要否や注意点を確認してから、その指示に従い行動してください。また、医療機関へ移動する際は、可能な限り公共交通機関の利用を避け、周囲の方への感染を防ぐためにも不用意な外出は控えてください。

風疹について

風疹は風疹ウイルスの飛沫感染(つば)、接触感染によって発症します。ウイルスに感染してもすぐに症状が出ず、2,3週間の潜伏期間の後、発熱、発疹、リンパ節腫脹(耳介後部など)で発症し、通常数日間で改善します(3日はしかとも呼ばれます)。その後、はしかに比べ淡い色の赤い発疹、発熱、首の後ろのリンパ節が腫れるなどの症状が現れます。咳・鼻汁・目が赤くなるなどの症状がでることもあります。

合併症として関節痛・血小板減少性紫斑病・脳炎などが報告されています。大人になってかかると子供の時より重症化する傾向があります。

妊婦が妊娠早期に風疹にかかると、先天性風疹症候群と呼ばれる病気により、心臓病・白内障・聴力障害などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があるため、妊娠前にワクチンを受けておく必要があります。

2018年報告患者の96%が成人であり、免疫を持っていない人が多い30~40代の男性が報告数全体の半数以上を占めています。この機会にぜひ予防接種を受け、徹底した予防対策に努めましょう。

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係
(平成30(2018)年9月1日時点)



麻疹(はしか)について

麻疹は麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状と発疹が現れます。空気感染するので、感染者と同じ空間にいただけでも感染の恐れがあります。

感染から10～12日間は症状がなく、その後、熱やせきなど風邪に似た症状が続き、口の中の粘膜に小さな白い斑点(コプリック斑)が現れます。2～3日間発熱が続いてから、高熱とともに発疹が出現します。主な症状は7～10日で軽くなりますが、特別な治療法はなく症状にあわせた対症療法になります。

麻疹感染者が周りに感染させる期間は、症状の出現する1日前(発疹出現の3～5日前)から発疹消失後4日くらいまで(または解熱後3日くらいまで)とされています。

本学学生に対しては2007年の流行を受け、入学時、麻疹に対して免疫を持つことを証明する書類を必ず提出するように徹底していますが、教職員のかたでこれまでにワクチンを1回しか接種されていない場合は、抗体価が低下していて容易に感染・発症する場合があります。接種歴が確認できず麻疹にかかったことのない方、接種回数が必要とされる2回に満たない方は、ワクチン接種を十分に検討して下さい。自分自身だけでなく、周りの方にも大きな影響を与える疾患です。接種歴、罹患歴等の確認をお願いします。

なお、一度麻疹を発症した経験がある方は、ワクチンの接種歴の有無にかかわらず、十分に強い免疫があると考えられますので、改めて接種する必要はありません。

※修飾麻疹

麻疹ウイルスに対する免疫は持っているが、免疫が不十分なヒトが麻疹ウイルスに感染した場合、軽症で非典型的(高熱が出ない、コプリック斑が現れない、発疹が全身に出現しないなど)な麻疹を発症することがあります。これを修飾麻疹と呼びます。

感染力は典型的麻疹よりは低いものの、周囲のヒトへの感染源となります。十分注意してください。

参考

○麻疹とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

○麻疹 Q & A (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/549-measles-qa.html>

○麻疹(はしか)(奈良県)

<http://www.pref.nara.jp/50399.htm>

***** 奈良教育大学保健センター *****